

会 議 録

名 称	令和5年度第3回坂戸市高齢者福祉及び介護保険事業審議会
開催日時	令和5年9月29日（金）13時30分～14時30分
開催場所	坂戸市役所301・302会議室
出席者の氏名	小田島京子、齊藤多美恵、三ツ森幸子、長野佐七、栗原厚夫（副会長）、山田ふみ、高山仁実、松本正人、杉本政弘、新井勇、于洋、須田正子（会長）
欠席者の氏名	田中明雄、川口茂、小林繁
事務局職員 の職・氏名	福祉部長・柴崎慎二、福祉部次長兼高齢者福祉課長・福島洋次、高齢者福祉課副課長・竹之下千恵、同係長・水村健太郎、同係長・小澤泰裕、同係長・厚川芳子
会議次第 及び 配布資料	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>（1）「坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」（第9期）の体系について（資料1）</p> <p>（2）「坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」（第9期）（案）について（資料2）</p> <p>6 その他 連絡事項等</p> <p>7 閉会</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
	3 議事
事務局	(1)「坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」(第9期)の体系について(資料1)に基づき説明。
会長	委員から何か質問等あるか。
委員	わかりやすく整理されたので良い。
委員	災害の部分も地域包括ケアシステムに入ってわかりやすくなった。
事務局	(2)「坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」(第9期)(案)について(資料2)
会長	委員から何か質問等あるか。
委員	基本目標3 成年後見制度は別の章立てになるとどのくらいのボリュームになるか。
事務局	第7章で、別章立てにしている。目標は個別で目標値を設定している。
委員	どのようなものがもりこまれるか。
事務局	第8期計画に策定したものをベースに国や県の動向を踏まえて入れる。
委員	表紙などに成年後見制度利用促進計画を表題に併記するのか。
事務局	他の課との関係性もあるため、次回の会議までに検討したい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
委員	市民後見人はどのようになれるのか。
事務局	市民後見人養成講座というのを社会福祉協議会で実施しており、市民後見人を養成する取り組みがある。
委員	高齢者の一人暮らしの方が多く、見守りをしているが、介護を必要とする人も多くなっている。地域包括支援センターの対応を求めることがあるのだが、人員不足。今後増員等の予定等はどうか。
事務局	地域包括支援センターの相談件数も多くなっており、忙しい状況を把握している。増員なども検討しているが、職員の募集をしているが集まらない現状もある。ただ人を増やせば解決する話ではない。また包括でなんでもできることではないが、今使い方の問題がある。包括の活用の仕方の周知や包括の業務の整理も必要と考えている。
委員	ケアマネジャーの更新講座に参加したが、なり手がいない状況。直接居宅介護支援事業所に連絡が来ることが多くなっている。使いたいものがあるのに使えないケアマネ難民が発生している。 なり手の問題と、この地域で働きたくないという問題がある。遠くでも坂戸は厳しいといううわさも聞いている。人手については人材派遣もあるが、やはり人件費負担などもある。最近は危機感が高くなっている。
事務局	坂戸市内の現場で働いている貴重なご意見はありがたい。 市でもどのようなことができるか検討しているところ。人手という問題とマンパワーとは別の負担軽減ができればと思う。
委員	市民も少しずつ賢くなって、介護保険を消費するというものではなく、介護の理解をし、持続できるように考えていけるとよい。市民もみんなで育つ環境づくりが必要。
事務局	日々高齢者の福祉が向上するようにしていきたい。情報をいかに伝えるかが重要になってくる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
委員	第7章 成年後見制度を受ける方は高齢者が増えているか。なぜ計画に位置付ける必要があるのか明確にする必要がある。成年後見制度の利用状況等も踏まえて教えていただきたい。人材のことについては、大学にも福祉を勉強したい外国の方も多。大学と連携して外国人人材を育成して、市内事業所で働いてもらうなどといった循環ができればと思う。
事務局	計画の位置づけについては検討したい。市長申し立ての実績については当日資料に掲載している。障害福祉課では通年で1人程度の実績になっているので実情として高齢者の実績が多い。 不足している状況を相対的にみて、希望する担い手や大学との連携も今後検討していきたい。
委員	介護予防はとても重要。たとえばグラウンドゴルフなどが介護予防にどの程度影響があるのかお聞きしたい。
事務局	健康で豊かに過ごせるまちを基本理念で掲げている。そのため、フレイル事業など様々な事業を実施している。そういった事業に一定の効果があると思っているが、それが数字としては捉えづらい。アンケート調査などを経年でみることで成果を図っていきたい。
委員	自分でどうにかしたいという人もいる。その状況になってみないと考えることがない。困ったら相談することは必要。市民の理解を深める良い方法があればいい。
委員	地域でも行きたいなと思うようなことがあれば、参加者が増える。楽しそうとなれば若い人も増えていく。地域で交流できる場にできればと思う。
委員	出てくる人は地域とのつながりがある人、関わりを持ちたくない人も中に入る、そういった人については、おせっかいでも声をかけるようにしている。個人差はあるので、関わり方は難しい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
委員	人に頼りたくない人も多い。主治医の人はわかるが、薬剤師 ケアマネジャーや関係者の顔を知らない場合もある。つながりやネットワークなどがうまくできればと思う。
委員	出かけることの効果について、検証した内容がある。4類型に分けられる家で何もしない人、リハビリしている人、デイサービスに行っている人、デイサービスで頑張る人、これらを比べると出かけて頑張っている人が元気。さらに地域に関わることで元気になる。出たくなる仕掛けも必要になる。動機付け、たのしいこと、かっこいいこと、かわいいなど動機付けがあれば外に出る原動力になる。
委員	多様な人材というところで元気な高齢者が支え手になるということになるので、計画に結びつくと思う。
委員	文章ではなく、P55にあるような図があるとわかりやすい。目で訴えるものがないとわかりにくい。
事務局	地域包括ケアの推進という表現だったが、今期については深化・推進という表現にし、充実していくことになる。
委員	計画に限らず図の中にQRコードも入れることでいろんな情報に飛べるようにするとよい。
事務局	情報等を得やすい体制なども含めて検討していきたい。
委員	埼玉県ではLINEなどで定期的に情報が流れてくるが、市ではやっているか。
事務局	市でもあるが、災害や緊急時のメールはあるが、使い方なども検討していきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
委員	サービス基盤等の話など今後のスケジュールなどもお伺いできればと思う。
事務局	高齢者の実態を把握したうえでサービス基盤していくことになる。基盤整備にあたっては今後事業所と相談しながら、計画に反映していく必要がある。県や市内事業所の意向等は次回の会議で報告ができると思う。第8期計画で位置付けた基盤整備を引き続き実現できなかったことを踏まえて考えるか検討していく。また、立てる場合については事業所の理解も必要になる。
委員	P 1 の表現について。介護保険制度20年が経過し……というところは計算すると23年程度なので20年超という表現が適切ではないか。
委員	P72 ボランティアポイント制度というのはどのようなものか。
事務局	日高市ではボランティアポイントなどがある。ポイントカードのようなもので、ボランティアを実施することでポイントがたまっていく制度になる。坂戸市では実施しておらず検討している。
	4 その他
	5 閉会